

問題はつぎのページから始まります。

一

次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文の——線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 ニュウヨクして体中を洗ってさっぱりとして気分になる。
- 2 細かい物を保存するのにベ入りな入れ物。
- 3 理科の実験でシヨクエン水を使う。
- 4 コンビニでザツシを買って読む。
- 5 諸国をめぐって見聞を広める。
- 6 その新ルールには数週間の試行期間がある。
- 7 草原で牛が放牧されている様子を見る。
- 8 お金の貸借をするために契約書を作る。

問二 矢印の方向に読める二字熟語ができるように、□に適当な漢字を書きなさい。

【例】親 ↓ □ → 約
 機 → □ → 約
 (答え: 「密」)

1 人 ↓ □ → 利
 実 → □ → 利
 ↓ 化

2 志 ↓ □ → 望
 念 → □ → 望
 ↓ 書

3 差 ↓ □ → 常
 特 → □ → 常
 ↓ 議

4 原 ↓ □ → 値
 時 → □ → 値
 ↓ 格

5 誤 ↓ □ → 答
 正 → □ → 答
 ↓ 散

二

次の文章の著者アビー・ワンバックは元女子サッカーのアメリカ代表選手である。著者はアメリカ東部の女子大学であるバーナード大学の卒業式で祝辞を頼まれた。次の文章は、そのスピーチを書籍化したものの一部である。女子サッカーアメリカ代表は、一九九九年にアメリカで行われた女子ワールドカップで優勝を果たしている。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

バーナード大学の女子学生に伝えたかったのは、個性を發揮し、仲間を手をつなげば、状況は変えられるということだ。それをどう語ればいいか必死に考えているうちに、少しまえに目にしたTEDトークを思い出した。イエローストーン国立公園のオオカミに関する、次のような話だ。

一九九五年、イエローストーン国立公園に、70年間いなかったオオカミが放たれた。サンピ両論があったが、レンジャーたちは環境悪化が進むイエローストーンを再生させたい一心で、危険をおかしてでもこの作戦に賭けたのだった。

70年ものあいだ敵がいなかったことで、この公園では **①** が食物連鎖の最上位に君臨し、急増していた。彼らは誰にじゃまされることなく草をはみつけ、その結果、ついに川岸が侵食されるまで草木が激減してしまっていた。

だが、 **②** がわずかに現れただけで、すぐに変化が起こりはじめた。

オオカミは予想どおりシカをしとめて減らしたが、それよりもっと重要だったのは、 **③** の存在によって **④** の行動が大きく変わったことだった。シカは、オオカミに攻撃されやすい谷を避けはじめた。すると、そこにふたたび草木が茂りはじめた。樹木の高さは、わずか6年で5倍になった。ほどなく、鳥やビーバーが新たに住みはじめた。ビーバーが川にダムをつくると、カワソヤアヒルや魚の生息環境が整った。

オオカミが残す死肉を食べるために、カラスやハクトウワシも戻ってきた。ベリーが実りはじめたことで、クマも戻った。

それだけではない。なんと川まで変わった。植物が再生したことで、川の土手が安定して崩落が止まった。おかげでまた、川がどこおることなく流れはじめたのだ。

簡単にいえば、

植物の生態系が再生した。

動物の生態系が再生した。

③ フウケイが一変した。

すべて、オオカミの存在で。

イエローストーンでは、多くの人々から生態系をおびやかすと恐れられていた存在^Bオオカミが、生態系の救世主となった。
では、これをわたしたちの世界に置きかえたら？

多くの人々から現在の体制をおびやかすと恐れられている存在^B || e が、社会の救世主となるということだ。
女性こそ、わたしたちが待ち望んでいた存在だということだ。

わたしたちはみな

オオカミなのだ。

これまでずっと、わたしにとってのオオカミの群れはサッカーチームだった。
だが、いまのわたしにとってオオカミの群れは、あらゆる場所のすべての女性だ。

オオカミの群れには、結束するための柱がある。最も効果的なのは、群れの行動の指針となるルールをつくることだろう。

女子サッカーアメリカ代表チームは独特な存在で、大きな組織から離れた女性^{はな}だけの生態系だ。^{*3} FIFAは女子サッカーをほとんど無視して軽んじているから、女子選手は多くのことを自力でやってきた。女子サッカーに対する敬意や未来が欲しければ、自分たちで手に入れるしかない。アメリカ代表チームはまさしく、女子サッカーの状況^{じじょう}を変えようと堅く^{かた}決意しているオオカミの群れだ。

わたしがメンバーになる2年前の1999年、女子サッカーアメリカ代表チームはFIFAを訪れて、ここアメリカで開催されるワールドカップを男子と同じようにNFLスタジアムで行ないたい、と言った。

I、FIFAはだめだと答えた。女子はそんな広い会場ではできない、チケットが売れ残るだろう——II、立場をわきまえろということだ。昔からのルールに従え。無茶をするな（注：無茶だと言われたときは、いいところを突いているときだ）。

III、そう言われたアメリカ代表チームはどうでしたか？

そんな警告は無視して、夢見てきたものを自分たちで築きはじめた。

彼女たちは、ゲリラ的な草の根マーケティングを展開した。学校を訪ね、体育館につめかけた子どもたちに語りかけた。サッカーのピッチに立っている少女たちを驚かせたこともある。ジュニアのサッカー大会のそばを通りかかったとき、あの子たちにワールドカップの話をしたいからと、バスを止めるよう運転手に頼んだのだ。

全員がやる気満々で、献身的だった。私利私欲がなく、熱心だった。みんなが結束し、できるはずだと信じている未来のために力をつくし、ぜったいに実現させると心に決めていた。

IV、やり遂げた。

チケットを売りきったのだ。世界が目にしてきたなかで最も力強い女子スポーツの展開を、女子スポーツ史上最大のイベントをつくりあげたのだ。

ローズボウル・スタジアムで開催された決勝戦には、9万を超える観客が集まった。それは、女子スポーツ史上最多の観客数であり、男子のワールドカップも含め、アメリカで行なわれたサッカーの全試合において最高視聴率を記録した。世界で4000万もの人が生中継で観戦した。プロのサッカーやバスケットボールの決勝戦よりも高い視聴率だった。

とつぜん、サッカーに新しいルールが、女性がつくったルールができたのだ。それもこれも、先を見すえた強い女性たちが古いルールを破ったからにはかならない。

黒人女性の映画監督として初めてアカデミー賞作品賞にノミネートされたエイヴァ・デュヴァーネイは、こう言った。

*7 ガラスの天井について言えば……わたしは、わたしを入れたくないと思っっている家のドアを壊すことには興味がありません。それよ

り、自分の家を建てることに惹かれます。

バーナード大学の女子学生に伝えようと決めたメッセージ、すなわち本書のメッセージはこれだ。女性は今現状維持のために存在する古いルールに従うのをやめるべきだ。

これまでのルールに従いつづけているかぎり、ゲームは変わらない。

古い考え方は、新しい世界をつくる役には立たない。

古いルールはいらない。新しいルールをつくるのだ。

(アビー・ワンバック『わたしはオオカミ』)

*1 TEDトーク……様々な著名人のスピーチや講演内容を公開したもの。ここでは英国の活動家ジョージ・モンビオが2013年に行つたものをさす。

*2 くをはむ……食べる。

*3 FIFA……国際サッカー連盟。

*4 NFLスタジアム……アメリカンフットボールチームの本拠地となっているスタジアム。ここでは、平均7万人ほど収容できる巨大スタジアムのことをさす。

*5 ローズボウル・スタジアム……カリフォルニア州にあるスタジアム。収容人数は9万2千人。

*6 エイヴァ・デュヴァーネイ……映画監督・脚本家。

*7 ガラスの天井……目には見えない性差別や人種差別などで、不当な扱いを受けたり、昇進を妨げられたりすること。

問一 〓線部①く③のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

問二(1) 本文中 ㉑ く ㉒ にあてはまる語句としてそれぞれ正しい組み合わせ、あとのアくエの中から選んで記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|----------|----------|----------|----------|
| ア | A : オオカミ | B : シカ | C : オオカミ | D : シカ |
| イ | A : シカ | B : オオカミ | C : シカ | D オオカミ |
| ウ | A : シカ | B : オオカミ | C : オオカミ | D : シカ |
| エ | A : オオカミ | B : シカ | C : シカ | D : オオカミ |

(2) 本文中 ㉓ にあてはまる言葉を本文からぬき出して答えなさい。

問三 本文中 I く IV にあてはまる語句として適切なものをあとのアくオの中からそれぞれ一つずつ選んで答えなさい。

- ア そして イ さて ウ だが エ あるいは オ つまり

問四 ——— 線部 A 「それ」とありますが、その内容を本文中から三十字以内で探し出して、最初と最後の五字を答えなさい。

問五 ——— 線部 B 「生態系」とありますが、水辺の生態系についての次の質問に答えなさい。

メダカやフナなどの魚が、水中で呼吸するために使っている器官は何か、書いて答えなさい。

問六 ——— 線部 C 「ぜったいに実現させる」とありますが、女子サッカーアメリカ代表チームはどんなことを実現させたいと思っていますか。四十字以内で書いて答えなさい。ただし、解答には次の語句を必ず使いなさい。

・アメリカ	・女子ワールドカップ
-------	------------

問七 ——線部D「新しいルール」とありますが、女子サッカーアメリカ代表チームの女性たちがつくったルールによって、何ができましたか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 1999年にFIFAを訪ねたこと。

イ 学校を訪ねて、体育館につめかけた子どもたちに語りかけたこと。

ウ それぞれ自分の家を建てたこと。

エ 女子スポーツ史上最大のイベントをつくりあげたこと。

三

次の文章は伊予原新「アンモナイトの探し方」の一節である。母の故郷である北海道の富美別町にやってきた6年生の朋樹は、河原で一人黙々と石にハンマーを打ち付けてアンモナイトを採掘している戸川という男性に出会う。戸川は町立の自然博物館の元館長で、素っ気なくぶっきらぼうだが朋樹にアンモナイトを採掘する方法を教えた。また、朋樹は二十年前に建設されたダムによって付近の化石産出地の多くが水没したこと、当時町立自然博物館の館長だった戸川がダム建設に反対して館長の職を追われたことを知った。同時に博物館の標本収蔵庫に収められている膨大な量のアンモナイトの標本を見て、アンモナイトの化石という同じものをいろいろな人がいろいろな場所で何十年もの間集め続けていたことを目の当たりにした。読んで、あとの問いに答えなさい。

「怒ってないんですか？」

「何にだ。町長にか」

「だって、町長のせいで館長をやめることになったって、ヨシエさんが。普通、許さないでしょ。町長のこと……うちのじいちゃんのことも」

「許すもくそもない」戸川は静かに言って、その場にあぐらをかいた。「化石の産出地を守りたいなどというのは、私のようなごく少数の人間のエゴだ。富美別の存続や、町の人々の暮らしとはとても比べられん」

「だったらなんで——」^A「ダム建設反対に回ったのか。」

「君は、^{*}環境アセスメントというのを知っているか」

朋樹はうなずく。「何となくですけど」

「私がまだ自分の行動を決めきれずにいたときのことだ。環境アセスメントの報告書が私のもとに回ってきた。そこには〈地質〉の項目があつて、こう書かれていた。へアンモナイトの化石産出地が一部消失するが、^{*}2 湛水区域外にも広く分布しており、影響は限定的である」^B

戸川はそこで息をつき、眉間のしわを深くした。

「さすがに読む手が震えたよ。へ一部消失」などという言葉で片付けられるようなことではない。中でも、白亜紀後期チューロニアンの露頭にいたっては、一つ残らず水没してしまっただからな。四百万年にわたる一つの地質時代を丸ごと消し去ってにおいて、（影響は限定的）そんな言われ方をされて私が黙っていたら、彼らに申しわけが立たんじやないか」

「彼らって——」昨日見た光景が浮かぶ。「昔の研究者の人たちですか」

戸川はかぶりを振った。「その時代のアンモナイトたちに決まっているだろう」

「ああ……」朋樹は低くもらし、告げる。「昨日、倉庫の奥も見せてもらいました。化石がいっぱいしまっており。何ていうか……ヤバいですよね、あそこ」

あのと感じた驚きを伝えたいのだが、気恥ずかしさもあって、素直に言葉にできない。

「だって、どの引き出し開けても、アンモナイトばっか。全種類コンプリートしたいのかと思ったら、同じ種類のやつがメツチャあるし」
言葉じりを軽くしようと必死な朋樹を、戸川は黙って見つめている。

「それが『研究』ってやつなんですか？ それとも、埋まってる化石は一つ残らず見つけ出してやろう、みたいな？ だいたい、なんでみんな必死になってアンモナイトなんか——」もはや質問という形でしか、思いを口にできなかった。「仕事だからですか？ でも戸川さん、もう博物館はとっくに辞めてるし」

数秒間を置いて、戸川はふんと鼻を鳴らした。
「おもむろに腰を上げながら言う。」

「ただ単に、中毒みたいなものさ」

「中毒？」

「土を触って地層を調べ、ハンマーを振るって化石を採り、記録をつけて考える。それを毎日のように続けてるとな、病みつきになるんだよ。単なる肉体労働ではないし、机に向かってうんうん唸っているのとも違う。頭と体を同時に使うってことが、人間という動物の性に合っているのかもしれない」

「楽しいんですか」

「やってみれば、誰だれにでもわかる。疲れつかまでが心地いいんだから、不思議なもんだよ。一度その味を知ってしまうと、歳としをとったからといって、家でじっとなどしておれん。幸い——」

戸川は体を反転させ、崖がけのほうを見渡した。

「やることはまだいくらでもあるからな」

「いくらでもって……」朋樹もそちらに顔を向ける。「いい場所はもう水没しちゃったんでしょ？ それとも、ここは見込みみこみがあるんですか？ 何かすごい発見がありそうとか」

「そんなことは誰にもわからん。わからんからやるんだろうが」戸川は渋い顔しぶい顔で言った。

「やるのは誰でも構わんが、何年、何十年かけてでも散々やってみて、それでもダメなら、ここはダメだということがわかる。そして、次の場所へいく。わかることではなく、わからないことを見つけていく作業の積み重ねだよ」

戸川は地面のハンマーを二本拾い上げると、一本を朋樹の目の前に差し出した。

「科学に限らず、うまくいくことだけを選んでいけるほど、物事は単純ではない。まずは手を動かすことだ」

(伊予原新『月まで三キロ』)

*1 環境アセスメント：大きな工事をする前に、その工事が環境におよぼす影響を調べる制度。

*2 湛水区域：田んぼやダムなどの水をためるところ。ここではダムによって水没する区域のこと。

*3 白亜紀後期チューロニアンの露頭：今から9390万年〜8980万年前の時代の地層などが地表に表れている部分。

問一 ……線部①～③の本文中での意味として最も適切なものをそれぞれあとのア～エから選んで記号で答えなさい。

① 「息をつく」

ア 緊張などで息をとめること
ウ 息をするひまもないようす

イ ひと呼吸置くこと

エ 呼吸がはやくなること

② 「鼻をならす」

ア 甘えたような様子
ウ 不満がある様子

イ 満足そうな様子

エ 得意そうな様子

③ 「渋い顔をする」

ア 苦しんでいる様子
ウ スッキリした様子

イ 我慢している様子

エ 不快な様子

問二 ——線部A「ダム建設反対に回った」とありますが、戸川はなぜダムの建設に反対したのでしょうか。その理由として最も適切なものを次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア 町長のせいで自然博物館の館長をやめることになったので、その恨みをはらすため。

イ ダム建設によって住んでいる土地から立ち退きしなければならなくなる人々の暮らしを守るため。

ウ ダム建設でアンモナイトの産出地が消失してしまうことに対する扱いが軽すぎると感じたから。

エ 富美別町で何十年の間アンモナイトを集め続けた研究者たちに申し訳がないから。

問三 ——線部B「アンモナイト」とありますが、アンモナイトは「示準化石」に分類分けされます。示準化石は地層の何がわかる化石でしょうか、書いて答えなさい。

問四 ——線部C「彼ら」とありますが、その内容として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 町の人々
- イ 昔の研究者たち
- ウ アンモナイト
- エ ダム建設工事の人たち

問五 ——線部D「言葉じりを軽くしよう」とありますが、なぜですか。その理由となる部分を本文中から二十二字でぬき出して、最初と最後の三字を答えなさい（句読点も字数に数えます）。

問六 — 線部 E 「中毒」とありますが、この言葉と同じ意味で使われている言葉を本文中から四字でぬき出して答えなさい。

問七 — 線部 F 「頭と体を同時に使う」とありますが、ここでは具体的にどうすることを言っていますか、本文中の言葉を使って三十字以内で答えなさい。

問八 本文中の「おもむろに」と同じ意味・用法の「おもむろに」を使って短文を作りなさい。ただし、解答には主語と述語を必ず使いなさい。また、本文の語句や文を利用しただけの解答は不正解とします。

